

Kume Island

Cultural Spot Guide Map



久米の息吹を感じる島散歩

Half Day Course ①～⑧

- 県道
- ⊗ 学校
- ⊕ 病院
- 〒 その他の道路
- 〒 郵便局
- ⊠ 宿泊施設
- Ⓜ 信号機
- 村役場
- ガソリンスタンド
- Ⓧ バス停
- ⊗ 交番・派出所

Trash Bin Toilet

尚真王代に王府軍の攻撃を受け、火攻めによって落城したと伝えられています。これまでの発掘調査により中国製陶磁器が大量に出土しています。



6 Roadside Garcinia Trees

島には真謝のチュラフクギに象徴するフクギ並木が所々に残っています。ここでは人々の生活に密着した、久米島らしい独特の雰囲気をもつフクギ並木を見ることができます。宇根の三叉路付近の集落内の小道に、空を覆ってしまいそうな程成長した立派なフクギ並木があります。街灯がまだ設置されていない頃は、頭上の木々の間から漏れる月明りを頼りに歩いたそうです。そこは、そのような在りし日の集落の姿を今に伝える空間です。宇根・真謝のフクギは、集落の防風林として18世紀中頃から政策的に植えられたものです。近年は家屋敷の改築や道路工事等により、並木は徐々に姿を消しつつありますが、かけがえのない遺産として、後世に伝える必要があります。
※フクギ：成木は10メートル以上にもなり、まっすぐ固い幹や分厚い葉をもつことなどから、主に防風林や防火林として植えられ、久米島町の町木に指定されています。

7 Tunnaha Forest Park and Ruins

(町指定史跡)
登武那覇城跡は、久米島町役場仲里庁舎の北方約500mのところにあるトンナハ山(標高120m)の南側斜面の中腹にあります。城主は伊敷索按司の三男で笠末若茶良と称され、宇江城城や具志川城の城主と異母兄と言われています。この城は他の城が山の頂上や海に面した断崖上に築城されているのに対し、山の中腹の斜面に位置し、石垣も安山岩の大石と大石の間を小さな安山岩を野面積みにしてつないでいるだけです。城内からはグスク系土器片、類須恵器、青磁片等がわずかに確認されています。笠末若茶良のことを歌ったオモロが数首あり、登武那覇城周辺の住民から慕われる人望厚い城主であったことがうかがえます。

8 Tokujimu Sea-cliff Walk and Bird's Mouth Rock

島尻の南端、トクジム公園から見おろす景観は見ごたえがあります。南海上にそびえ立つトクンバーラ岩周辺の海は色々な海洋生物が回遊してくる豊かな海、ジンベエザメやシュモクザメ、マンタなどの大型回遊魚が見られるダイビングポイントとして知られています。冬季にはクジラがやってくるので、潮吹きが確認できる時もあります。岩場に目をやりながら遊歩道を歩いて見ましょう。海中から巨大な安山岩が数十メートルもそそり立つ光景は壮観で、火山活動のスケールの大きさを感じさせます。遊歩道を西に歩いて行くと、くちばしを突き出して天空に向かい岩の中から飛び出そうとしているように見える「鳥の口」と呼ばれる奇岩があります。
※トクンバーラ：久米島の南約2.5キロ海上に立つ安山岩の岩山。

1 Cultural Center and Museum

常設展示室では、島の自然や歴史文化を通して久米島の基本情報を一通り得ることができます。また、ロビーでは、パソコンガイドを使い、必要に応じて地図情報を得ることもできます。

2 Mifugaa Rock Formation

岩壁の中央に空洞があり女岩とも呼ばれ、「子宝に恵まれない女性が拝むと、ご利益があると言われます。」というのが一般的な説明ですが、地学的に見るとミーフガーは一枚の岩に穴が空いているのではなく、穴の上に走っている亀裂を境に海側の岩が石灰岩、陸側の岩が凝灰角礫岩という岩石で400万年以上前にできたものであり、この2つはそれぞれ違う時代にできた岩です。海底にあったこの地帯が陸地化する過程で潮や風に削られ、固い部分だけが残り現在のミーフガーになりました。
※凝灰角礫岩：直径32ミリ以上の火山岩と大量の火山灰が海底に堆積してきた岩石です。

3 Tachijami Rock Formation

(町指定天然記念物)
タチジャミ岩は、久米島町の北端の海岸にあって、高さ約40m、横幅約70m、厚さは約5mの屏風を立てたような形態をしています。これは地下の直線状の割れ目の中でマ

グマが固まってできたもので、周辺の軟らかい堆積層が浸食により消失し、流紋岩から成る硬い岩脈が残って形成されたものと考えられています。又、このような形態をした岩脈は沖縄県下でもここだけです。
※流紋岩：火山岩の一種で、紋様が流水状を呈しかつて流動した形跡を留めています。九谷焼の原料としても用いられます。
※浸食で崩落が続いているので観察の際には注意しましょう。

4 Hiyajo Cliff

(町指定史跡)
比屋定から阿嘉に向かって緩やかな坂を登りつめた所に、展望台があります。このあたりを宮城鷹夫(当時、沖縄タイムス記者)氏によって、比屋定/パンタと命名されました。この比屋定パンタの展望台に立ってみると、右側には延々

5 Uegusuku Mountain

(国指定史跡)
久米島で最も高い宇江城岳(310m)の山頂に築かれた山城(やまじろ)形式のグスクです。グスクは三つの郭で構成され、城壁は平割にした安山岩の野面積みによって築かれています。上壇一の郭の東側の石垣は城内で最も高く、物見跡といわれています。下側の郭の城壁は低く、前大戦まで城門などもよく残っていたといわれています。戦後米軍の基地内になり、復帰後に自衛隊施設に移管され、平成13年度に施設の一部が返還になり、現在では城内への出入りが自由になりました。記録によれば、伊敷索按司の長男、久米中城按司が堂の比屋の下女オトチコバラの勧めでこの地に定め、築城はむくち樽金が請負い、ティヤントールという石工の協力を得て完成したとあります。

8 トクジム海岸と鳥の口

トクジム海岸と鳥の口